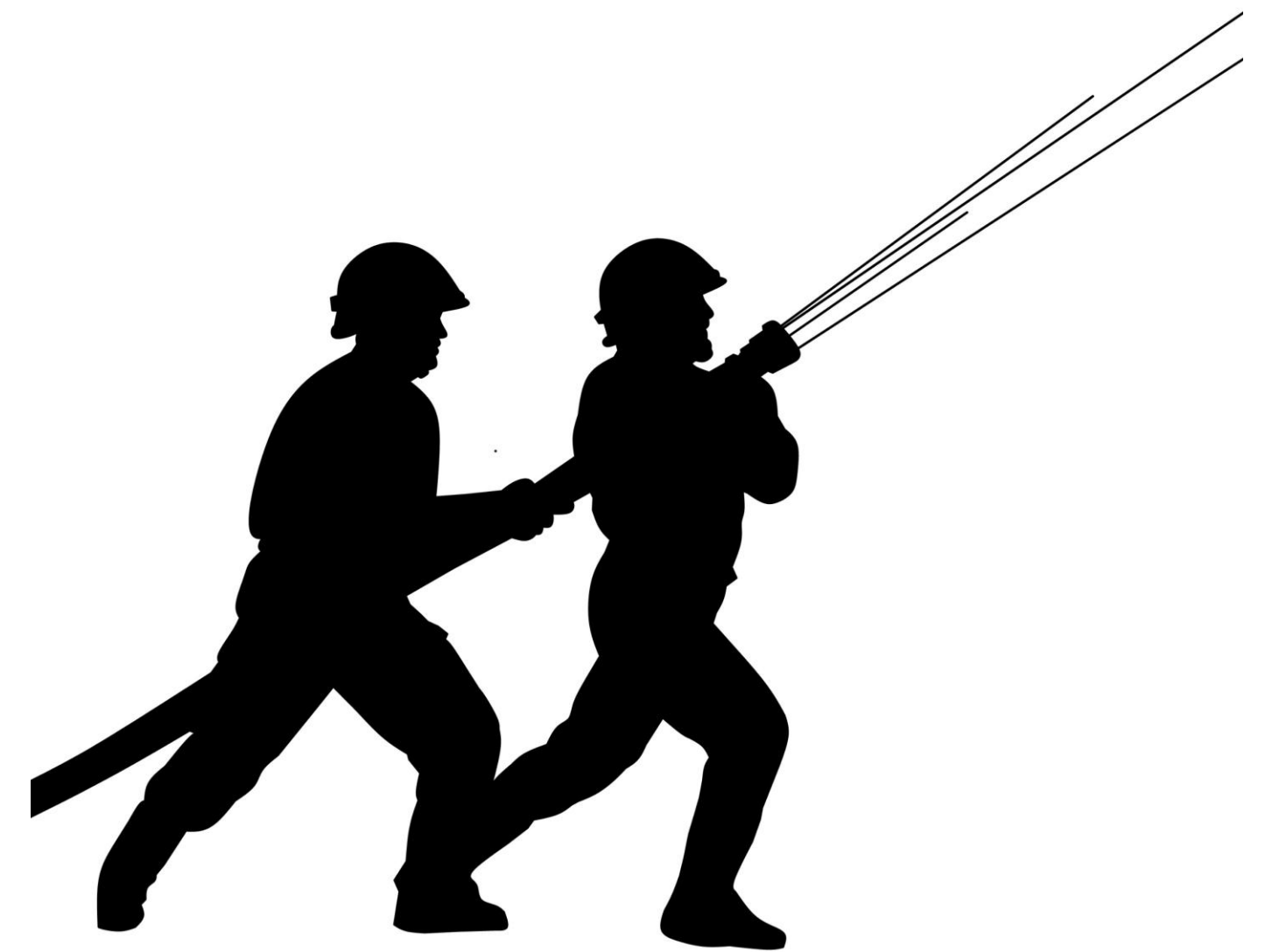


三木市防災フェスティバル2025. 9. 26 (サービ斯拉ーニング地域防災と共助) 岩田彪我、迫田大空、碇武ぜん、石塚武翔、 加藤大翔、福井敬伍、福田大地、山内蒼史

代表の方のご挨拶



今年2025年1月17日で阪神淡路大震災から30年という節目を迎えた。
南海トラフ地震や地震による大きな被害が懸念されている中、このイベントによって若者から高齢者の防災意識をより一層深めるために、大震災経験者の方々を中心にイベントが開催された。
開会式では、三木市長の方、三木防火協会会長の方、三木市議会議長の方、兵庫県議会議長の方、衆議院議員の方など多くの代表者様が、阪神淡路大震災が起こった当初のお気持ちや、三木市やそれ以外の街がいまだに復旧していないことへの思いなどをお話ししてくださった。



地震体験 通報体験 煙体験

イベントの様子



地震体験、119通報体験、煙体験など災害時に起こりうることを実際に体験する施設が何力所もあった。
地震体験が一番人で、東日本大震災や熊本地震、阪神淡路大震災など実際に起こった自信をもとに揺れを体験するというものだった。体験している方は想像以上の揺れに手すりをつかんだり、しゃがんで身動きが取れなくなっていた。
119通報体験では実際に事件現場などに立ち合い、通報する立場になったときに冷静にコミュニケーションを取ることができるかを試されていた。
煙体験では、家や施設が火事になったときに煙で前が見えず危険であることを想定して、ビニールハウスから、脱出できるようにしていた。

本学の出し物

簡易ベットの説明中...



災害時、赤ちゃんや小さい子供を連れて避難所に避難しなければいけない方向けの簡易ベットの作り方や、小さい子から大人の方まで参加できる心肺蘇生方法を本学の出し物としてやらせていただいた。
心肺蘇生のほうでは多くの方が参加してくださり、正しい心臓マッサージやAEDの使用方を学びながら実践してくださった。
簡易ベットのほうでは子連れのお母さんや祖母の方の参加が多い印象にあった。
担当してくれた生徒たちは、「人の命を救うことの大切さ」「相手の理解度に合わせて柔軟に対応することの重要さ」「自分の理解度が曖昧であることから、伝えることも曖昧になり、学びなおす必要があること」「言葉が真名あまりわからない子供に対してどのように説明すれば理解してもらえるか伝えることの難しさを感じた」などお客様に対して説明することの難しさや人の命にかかわることの難しさなど防災意識だけでなくコミュニケーション能力に関する学びがあったと振り返っていた。

振り返り

イベントということもあり、あまり参加者はいないであろうと思っていましたが、大震災から30年ということもあってかたくさんの方がいたことに驚きました。普段は体験できない煙体験や地震体験を通して、地域の方々の防災意識が高まったと感じました。本学が行った心肺蘇生は、一般人が人の命を救うことができるかもしれない唯一できることかもしれません。それを地域の方々が積極的に参加してくださったことが一番の成果だったと感じます。経営学部地域マネジメント専攻として地域の方々がより良い学びをすることの携わることができて良かったです。